

Saori Ikeuchi TIMES / no.019 / 2020.7.19 sun.

TOKYO 12 HAUS

池内さおり通信
 日本共産党
 衆院東京12区
 池内さおり事務所
 〒115-0042
 東京都北区志茂
 2-53-7

電話：03-5939-6581 ファックス：03-5939-6582 メール：tokyo12haus@saori-ikeuchi.com

宇都宮けんじ・斉藤りえ両候補、大健闘！

7月5日に投開票された、東京都知事選挙、都議会議員補欠選挙。日本共産党と池内さおりさんは、宇都宮都知事候補、立憲民主党公認の斉藤都議候補の勝利を目指し、全力をあげました。池内さんは両候補の応援のため、6月26日には立憲民主党・蓮舫副代表と、28日には同枝野代表とともに街頭に立ち訴えました。

「自己責任よりも社会的連帯を」と掲げた宇都宮さんの政策や、「誰ひとり取り残さない東京へ」と呼び掛けた斉藤さんの訴えは、大きな共感を広げました。議席には届きませんでした。ともに市民・野党の共同候補としてたたかった両候補は、次点での大健闘。託されたご期待の実現に、引き続き全力を尽くします。



26日、車上で訴える(左から)蓮舫副代表、斉藤さん、宇都宮さん、池内さん、小池晃・日本共産党書記局長。手話通訳者とともに



池内さおり
Saori Ikeuchi
前衆議院議員

市民も政治家も、主権者も未来の主権者となるべき人たちも、語り思いを伝える。より良い方向性を皆の参加で探り育てていく。私たちはこの民主主義の営みに、選挙のたびに少しづつ長けてきている！より良く生きるために、小選挙区勝利と比例躍進めざし頑張ります！

野党の共闘はここまで進んだのだと嘯みしめる思いです。北区の皆さんが託してくださった一票一票、そして選挙権のない状態でも変化を望んで頂いている市民の方々：多様な声に励まされ背中を押され、政党共闘が進んできたことを噛みしめます。来るべき解散総選挙では、この流れをさらに大きく育て上げ、市民と団結し、政治を変えていきたい！改めて強く決意しています。

今回の都議補欠選挙は政策協定を結び、立憲民主党の斉藤りえさんを応援し、選挙に取り組みました。私も立憲民主党の宣伝カーに乗り北区内を走るという体験をし、それぞれスタイルが違う選挙のやり方、どこまでやっていいか、何を言っていないか、最初はどろどろしていいかわかりませんでしたが、同じ宣伝カーに乗り時間が共有し「間合い」が分かった感じがしています。

色あざやかな社会へ
Column vol.19
深化する共闘、実感

毎月12日は

TOKYO 12 HAUS の日

池内さおりがお待ちしている「TOKYO 12 HAUS」の日。実施再開のめどが立ち次第お知らせいたします。

池内さおり トークタイム

新型コロナウイルスの状況を踏まえ、当面の実施を見合わせます。ご了承ください。



市民と野党の共闘が深化・発展



赤羽駅東口で共に支持を訴えた（左から）池内さん、斉藤候補、枝野代表

池内さんは28日、斉藤候補の応援演説で、立憲民主党と日本共産党とで結んだ政策合意の内容を紹介。「本気で政治を変えたいからこそ、個人も政党も認め合う努力をし続け、共にたたかうこの瞬間を切り拓いてきました。斉藤候補は、シングルマザー当事者、聴覚障がい当事者



両候補への支持を電話で訴え

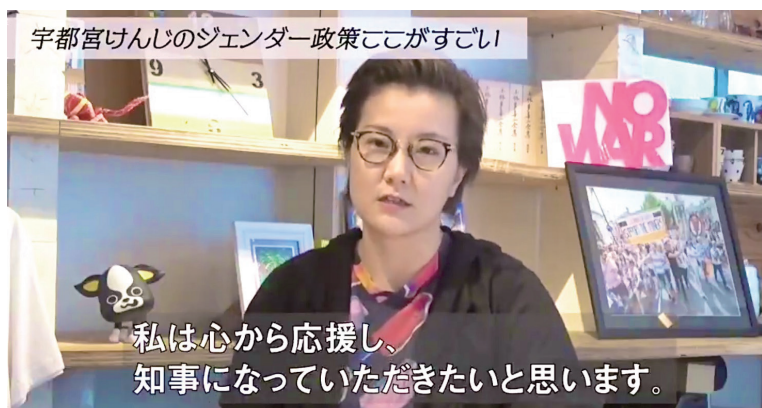
として活動し、北区で手話言語条例を実現。対等な個人として私たちは存在し、それぞれ違いがあります。誰かを排除する政治はもう終わらせましょう」と訴えました。

#選挙を使ったセクシュアルハラスメントに抗議します 半裸ポスターに抗議の世論広がる

都議補欠選挙では、ホリエモン新党が公営掲示板に、候補者が肌を大きく露出したポスターを掲示。多くの市民から抗議の声があがりました。池内さんは自身のツイッターで「女性を差別し続ける」という宣言と私は受け取った」と発信し共に抗議。そのツイートは2万件のリツイート、3万件的いいねがされ、427万回以上見られるなど、世論の大きさが示されました。世論を受け、同党はポスターを修正しました。

宇都宮さん応援動画が5万回再生！

池内さんの宇都宮候補への応援メッセージ動画が大きな反響を呼び、7月1日の公開から投票日まで5万回をこえて再生されました。



宇都宮けんじさん応援動画より

コロナ禍、都政、ジェンダー… 豊島区で青年と語り合う

池内さんは6月21日、米倉春奈都議とともに、豊島区の民青同盟が開催したイベントに参加。高校生から社会人の皆さんと語り合いました。

池内さんは、親の虐待で家を出ざるをえなかった少女の特別給付金の受け取り手続きに同行した経験を報告。コロナ禍のもと、様々な属性によって社会、行政のケアを受けられなかった人がいることを知って欲しいと語りかけました。

米倉都議は、後手に回った小池都政のコロナ対策を告発。都知事選挙の重要性を訴えました。

話は大型開発優先の都政の問題点、ジェンダーと性教育などに及んで盛り上がり、コロナ後の社会も展望して生き方を考え合う、希望のもてる場となりました。



参加された皆さんと

文科省「虐待で苦しむ若者に 給付奨学金など支援」と回答！

6月8日、虐待を受けている若者が、親の所得に関係なく、本人の経済状況で給付奨学金などの支援を受けられることが文部科学省の回答により明らかになりました。池内さんがこの間、困難な状況に置かれている若者らからの相談を受け、本村伸子衆院議員と連携して対応を求めてきたものです。

通常、学生支援は親の所得に応じて行われるために、虐待被害者などにとっては様々な困難が伴います。これまで被害者は、暴力や経済的支配のもとで、虐待から逃れることが難しい状況がありました。

「暴力にさらされずに学ぶことができる制度を」「自分で学費や生活費を稼がなければならない学生さんを支援する制度を」との願いに応えた今回の回答。今後、虐待被害者は「独立生計者」として自ら支援を申し込めます。